

平成 27 年度第 3 回恵那市総合計画審議会会議録

日時：平成 27 年 10 月 15 日（木）

午前 10 時から 11 時 30 分

場所：恵那市共同福祉会館集会室

1. 会長あいさつ
 2. 会議の公開、公表について（確認）
 3. 答申
 4. 市長あいさつ
 5. 計画実現に向けての意見交換
 6. その他
 7. 閉会のあいさつ（副会長）
-

欠席委員 市川美彦 伊藤常光 黄地尚幸 近藤慎平 鈴木峰夫 野田光子 古山真実
堀和昭 堀鑛 丸山朝夫 山本和男 山本好作 渡辺正人

■事務局（進行） 第 3 回審議会を始める。前回から半月経っている。次第に沿って進める。

1. 会長あいさつ

■事務局（進行） 会長からあいさつをいただく。

■会長 昨年から検討してきた恵那市第 2 期総合計画策定は本日で終了し答申する。その後、計画実現に向けての皆さんの意見を聴く。

2. 会議の公開、公表について（確認）

■事務局（進行） この会議は公開とし、会議録もホームページ等で公表する。

昨年 4 回、本年度 3 回の審議会、また昨年度は 6 回～9 回の部会を開いた。ただいまから答申書を渡す。市長、前へお願いします。正副会長から市長に答申書を手渡す。

3. 答申

[正副会長から別紙の通り答申]

4. 市長あいさつ

■事務局（進行） 市長からあいさつをする。

■市長 早朝から第 3 回審議会を開催していただいた。西村会長から第 2 次恵那市総合計画(案)の答申をいただいた。誠にありがとうございます。平成 26 年 6 月 26 日に審議会に諮問をし、1 年 4 カ月慎重審議していただいた。今日まで 7 回の審議会、各部会は 8 回、9 回重ねていただいた。次なる 10 年に向け、あるいはそれを越え、先を見越して、この総合計画に基づき、恵那市のまちづくりをしっかりとしていきたい。

基本構想、基本計画は、12 月定例市議会に提案する。そこで議決していただき、実施する。計画案に基づき、何よりも大事な実施計画を早急にまとめる。それには、各地域の地域計画をしっかりと網羅して、地域と共に恵那市が発展するような計画を作る。そして、平成 28 年度からこの計画がスタートするので、28 年当初予算で実行できるよう進めたい。恵那市民の声が詰まった計画なので、しっかりと受け止め、我々執行部で精一杯それに基づきまちづくりを行う。

さらにこれを検証していただかないといけない。検証する組織を作ってください、皆さ

んの努力が無にならないように、恵那市の計画が実行できるようにしたい。実行できなければ絵に描いた餅になる。そうならないように、第1次総合計画も事業を進めてきたが、今回の第2次総合計画はさらに恵那市の課題が大きいので、そうしたことに向けても、この計画を忠実に推進する。これによって恵那市が大きく育つということもあると思う。ぜひこの計画を中心に恵那市のまちづくりを進める。

これまでの皆さんの努力に対して心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

5. 計画実現に向けての意見交換

■会長 今後計画の実施になる。皆さんには委員を1年または2年務めていただいた。今後計画実現に向けて留意すべき点について、意見を聴きたい。冒頭に私の考えを述べる。

今回の総合計画の審議会の会長の話をいただいたとき、考えたことがある。恵那市を何度か訪問していたが、日本全体から考えても、今後、中山間地域中心都市が抱える課題について、恵那市は壮大な社会実験の場になり得る地域だと思っていた。右肩下がりばかりではなく、次の芽が芽生える可能性がある地域だと思っている。ただし、今後10年の計画なので、今後10年間で今後20年、30年にとっての勝負になる。だからしっかり作りたい。その際、2つのことを外さないようにしたい。夕張のようにならないために、行政組織体として行財政の基盤を失わせないこと。もう一つは、人口減少に正面から立ち向かうこと。全精力を上げてそれに対応する。

それをやっていく上で、その思いを実現させるための方法、手法については、2つのことについては言い続けようと思っていた。一つは、行政を運営する際に、縦割りの壁を取り払いたい。複合行政、できれば総合行政の仕組みを意識付けする。また、住民が施設を造る際に複合利用、多目的利用するということをしっかり道を付けていかなければ、財政に跳ね返り、大黒柱が弱くなると思っている。もう一つは、策定のプロセスで、危機意識、課題を住民に共有してもらいたい。そこで、市民会議や次世代の人たちを中心にしたり地域懇談会をする。そこで、課題を強調するだけでなく、意欲、自覚をしっかり根付かせたい。それを考えた。

もう一つここにいる委員にお願いしたいのは、総合計画の策定は、一つは文書として仕上げるということもあるが、携わっていただいたことへの責任、一番よく理解しているのは委員だから、委員が地域や自分の団体に帰り、計画をけん引していただきたい。委員の理解のレベルをより幅を広げて友人や地域の人を巻き込んでいく力がないといけない。そういうことを考えて、この総合計画の審議회를終了させたい。

以上が私の感想だ。

順次意見を述べていただきたい。

■委員 私は1年しか携わっていないが、答申が出たので、それに向かって、地域、行政が一体となって進めていかないといけないと思う。今先生が言われたように、人口減少が大きな課題で、これは恵那市だけでなく、よその地域も施策をしているので、それを上回る施策をもって人口問題に対処していただければ有り難いし、自分たちも計画作りに携わった責任があるので、地域でそういうことについて先進的な役割を果たさないといけない。

■委員 私もこの4月からこの審議会に加わった。最初はついていけなかった。答申ができ、これがこれからのバイブルになる。さらにしっかり吟味して、これに基づいて地域に帰って地域のことに取り組みたい。取り組みに当たり、公平性、合理性を第一に考えてもらいたい。というのは、まず、合併してから時間が経つがまだ旧恵那市から見ると公平性、合理性に対して私どもが感じるところがある。13日の会長会議で、選挙関係で投票所の見直しが出ていた。これは一番いい例だ。市のため、町民のため、予算もついて回るので、簡単にはいかないと思うが、予算の面から、公平性の面、合理性の面から、誰も納得できるような行政であってほしいし、総合計画であってほしいと強く感じる。人口問題も、現実には難しいと思う。根本的な解決策がないものか。将来の展望に対しても、もっと具体的な何かを示してほしいといつも感じている。中野方町も人口問題では悩んでいる。移住など定着させないといけないと感じているが、今一步具体的な取り組みにはまっていないとか、実感がない。一步進んだという実感がない。何か示していただきたいと思う。

■委員 私は文化振興会の代表として参加した。人口問題、それに伴う財政問題は一番重要だが、個々に帰ったとき、その個々が生きがいをもって生きていくことが大事だと思う、活力2部会に参加し、そういう面で発言し取り上げていただいた。文化振興会の会員は一生懸命取り組んでいる。現在もそのことに取り組むことで生きがいを見つけている。今、恵那市文化祭の時期だ。たくさんのお大会もあるので、そういう機会を捉えて考え方を皆さんに伝えていきたい。

■委員 私は体育連盟の代表として参加した。健幸都市宣言でも体育連盟も一緒になって健康を考えていくという位置になると思うので、ますます大変になると思う。

人口問題があるが、地域に行くと人が減ってきてリーダーがいなくなってしまった。特に山岡は、過去と比べると若い世代が少なくなり、その活動は消防団ぐらいだ。以前は若い人たちが集まって、議論して、地域の課題を話し合いながらリーダーとして育ってくれた気がするが、そういう部署がなくなると議論もなくなり活力もそがれていく。これからリーダーが育っていくことが本当に大変だ。実施計画の中でどれぐらいそれが議論されていくか心配しているし、体育連盟も選手が育ってくれることが第一で、次に地域の皆さんの健康を考えながら取り組む。選手を育てようと思ったら、そのリーダーは、地域の職場、役場、農協、郵便局が若い世代を抱えて指導してくれたが、それが消えると、リーダーも

育たなくなる。これから地域のコミュニケーションも、その辺をしっかりと議論して、地域が存続していく限りはそういうことに取り組みたい。

■委員 私は最初から公募委員として参加した。軽い気持ちで参加して、びっくりすることの連続だった。偉い人の中で小さくなって話を聞いていた。安心部会にいて、そこでは意見が多く、難しい言葉は家に帰って夫に聞いたりして何とかやってきた。私は一市民、一主婦として、恵那市にもっと関心をもっていかないといけない。私のような感覚の人が市民のほとんどだと思う。私は家にどっぷりつかって主婦をやっていたが、定年退職してからふわふわしていて、刺激のあるこういう場に参加することができた。これからもっと広報を読んだり皆さんと話をしたりしたい。勉強させていただき感謝している。もっとしっかりしようと自分に言い聞かせた。

■委員 私も去年から今年度にかけて、静岡県、長野県3市の総合計画の策定にかかわってきた。しかし、こういう組織で住民の意見をよく聴く会議をよく勇気をもって恵那市は行政としてやったと、すごく感心している。そういう意味で、このあり方も他都市で参考としたい。他都市ではこういうものを1カ月ぐらいで作りあげた。1年間という期間をかけてこれだけ多くの人の意見を集約されたのは大変なことだったと思う。ただ、できたものを、こういう勇気を、もう一度、これからの実施に向けて、勇気をもって進んでいただきたい。住民もこれにかかわり地域計画にかかわることで、一緒に作った計画であるという意識を少なからず持っている。私の地域ではそうだ。その場合、地域もいろいろな形でこれから新しいものにチャレンジするが、行政も今までと違って、勇気をもってこれからできる実施計画を実行に移すために、住民を信用し、一緒に汗を流すことが必要だ。今後、この実現に向けてどう検証しチェックするかが非常に大切だ。それに私が参加するとするのなら、ここは双方が汗を流したかどうかが一番大事だ。住民の方に顔を向けながら実施してほしい。

■委員 私は安心部会だった。部会の中で皆さんのすばらしい意見がたくさん出た。基本的に皆さんの意見は、それぞれ住んでいる地域をベースにした考え方だった。恵那市全体をどうするというよりも、自分の地域をどうするかということが大部分だったと思う。恵那市を13に分割したのが地域であるのではなく、そもそも地域の集合体が恵那市であるという考えがとても重要だと思う。今回の総合計画の中で画期的だったのは、一つは、人口のデザインをある程度やったということ。人口減少することがいいのか悪いのか分からない。人口減少と言った瞬間に人口減少が悪いことだ、だから増やさないといけないという感覚になるが、むしろ、明治以降爆発的な人口増加があり、それが問題だったかもしれない。人口に関しては地域地域で人口デザインがこれから必要になると思う。

それから、今回の審議会では出なかったが、恵那市と関市と養老、小規模多機能自治推進ネットワーク会議に入っている。小規模多機能型自治がこれからどんどん求められてく

る。小規模多機能の核になるのは地域だ。地域の集合体が恵那市である。私は市民協会の仕事で各地域にお邪魔しているが、あまりの多様性に驚いている。それを一つの網で上からかぶせるのは非常に難しい。地域でできることは地域でやるということをベースに詳細な計画が立てられるといいと思う。

あと、総合行政や、その延長にあるかもしれない住民自治基本条例等々は、地域の目線で考えると、それぞれの地域は総合行政をせざるを得ない現場だ。それがさらに総合的に恵那市全体の総合行政を推進するというのが筋だと思う。

非常に残念だったのは、住民自治基本条例で、恵那市は行政も住民も未成熟であるという話だった。客観的に先生が見られてそうなのかもしれないが、それは非常に残念であり、むしろもう少し前向きなお言葉が頂戴できたら有り難かった。

■委員 恵那青年会議所の代表として参加した。今年からなので、分からない部分もあった。今回の総合計画が答申でき嬉しく感じる。しかし、やはり総合計画ということで、市民一人一人の認知がまだ足りていないと感じる。市民が認知して行動に移すことが必要だと感じる。総合計画を実施するに当たり、主導するのが行政になると思うが、団体や自治の皆様が連携を取って進めることで、個々ではなく大きな団体として恵那市を盛り上げる必要がある。一人一人が認知することで実現すると思う。

■委員 私はこの春から1年足らずだ。中身の濃いものが答申できよかった。私は快適部会だった。人口減少対策は各方面で課題を出して取り組んでいるがいずれも中途半端で終わっている。これはというものが何もない。子育てや、無料化もいろいろなところでやっている。恵那市には目玉がない。テレビでは離島に移住することなどをやっている。そこには目玉がある。教育では大都市に行っても、帰ってくる。そういう魅力がある。思い切った施策を立てることが必要だ。

総合計画は、絵に描いた餅にならないように、どう進めていくか、広げていくかが大事になる。地域や所属団体で広めることはもちろんだが、委員が宣伝マンになり広げないといけない。地域懇談会でパワーポイントで説明してもらった。ああいうものをたくさん作っていろいろな団体に渡してほしい。総会や人の多く集まる場所で、10分でも20分でもいいので流しながら、みんなの目に触れてもらうようにするといい。

これから計画を進め、検証する段階で、まず、すぐできることから始めないといけないと思う。

■委員 常に地域でピーアールしていくことが必要だと、今の話を聞いた。私は笠置町だ。夕べ議会報告会に出た。去年の出生数は、飯地町0、中野方町3、笠置町4。まさに少子化の波が極に来ている。対策を各地区持っているがいい案がない。昨日は、校区をとっばらい、全市1校区でどこに行ってもいいということを考えてはどうかという案が出た。そうすると学校の先生が大変になる。学校の特色を出して、それならこの学校に行きたいとい

う教育をすることが大事になる。少しでも子どもの数が増えてくれると有り難い。昨年、学校から頼まれ、地域の様子を子どもたちに話した。笠置町の人口が減ってきている、子どもの数が減ってきている、地域の人が何とか頑張っている、東雲大橋を起爆剤にして頑張ろうとしていると話した。子どもは本当に真剣に受け止めてくれた。病院もない。グループワークをしたとき、「あなたはお医者さんになり私は看護婦さんになって頑張る」という話も出た。木曾川にかかる新しい橋でバンジーをやったらどうかとか、笠置山から恵那峡に向かってロープウェイ、ゴンドラを走らせたらという、夢みたいな、子どもらしいかもしれないが、意見が出た。そういうものを全く無視せず、心に留めて計画を語る必要がある。

地域づくりは人づくりだと思う。三学のまち推進計画の策定にかかわりながら、この会の活力部会に入っていた。子どもたちに地域の実情を話す、地域で暮らすことの大事さを話す、学ぶことの大事さを分かってもらい、そのことを生かして動ける人を作っていくことが、地域を良くしていく学びの元になると真剣に考えた。各地区が公民館講座、市民講座を開いている。それも地域づくりの大きな課題になっていくと思った。地域文化の伝承も含め、地域の魅力を、どんな小さなことからでも発信していくことが大事だと思う。

■委員 私は農業委員会から参加している。活力部会だった。農業委員会は女性委員が5名で、岐阜県下で一番女性が多い。まず、女性が輝けるということで、今回、市長に事務局からお願いすると思うが、農業委員会だよりを女性委員が主力でやるようにした。今年の11月には改正農業委員会法ができるのでどうなるか分からないが、今年の1月に創刊号を出して、7月号に第2号という形で、女性委員を主体としたことをやりながら、農業委員会、農業はどうなっていくかを皆さんと考えていきたい。中山間地域の農業が元気になれば人口も多少は、増えもしないが減りもしない。これからも農業委員会に支援をお願いしたい。

■委員 今年4月から委員になった。昨日中野方で議会報告会があった。飯地町は人口が13地区で一番少ない。去年は出生数が0で、このままでは飯地町がなくなるという危機感がある。その中で地域計画を作った。今回の総合計画では会長の意気込みを感じる。人口減少に対しては意欲的だと思う。小学校の入学児童数450人を確保するというので、そのためには13地区の小学校14校をすべて残し、若い人に各地域に住んでいただきそこで子育てをしていただくということで、飯地の住民も安心している。問題は複式学級の解消。そのためには1クラス8人以上の児童が要するということだ。地域でも飯地町でも非常に若い人が中心になっていろいろなことで頑張っている。やはりまだまだ8人学級を達成するためには地域だけではハードルが高い。昨夜もお願いしたが、行政、審議会、みんながとにかく知恵を出して、複式学級を解消するように、実施計画を作り、方策をみんなで検討していただきたい。

もう一点、行政の縦割りを取り払うということ。たとえば、飯地町では振興事務所に所長以下5人の職員がいる。それぞれ担当を決めていて、縦割りがある。公民館の仕事をしている職員は公民館以外には手を出さない。5人が協力し合えばやれば相当の仕事ができると思う。忙しい部署はいつも忙しく、そうでないところは相当ゆとりがある。もっと全ての皆さんが一緒になってどんなことでもやっていける態勢が、特に振興事務所等では必要だ。所長のリーダーシップの中で、みんなが力を合わせて地域のためにやっていく事務所になると、相当変わると思う。私もボランティアでやっているが、振興事務所が情報も権限もあるので、地域の核となってやってもらいたい。

■委員 私も半年間、仕上げの作業だけに参加したので、意見を言うのは申し訳ない感じがする。2点お願いしたい。

一点目。10年間恵那市が今までに取り組んできた協働はなかなか浸透しなかったが貴重な時間だった。これを今回の計画では協働ではなく協力、連携といった言葉に置き換えるような感じがする。地域が消滅していかないためには、協力、連携が大切だと私も思う。特に若い人たちにこういう気持ちをもっと徹底して、主役は自分たちで自分たちがまちをつくっていくという感覚を植え付けていきたい。地域協議会などで行動していきたい。

もう一点はお願い。若い人たちがなぜか恵那市に集まって住んでしまうという、他市に勝る魅力ある施策をどんどん打ってほしい。起業する若者に補助金を出すとか、子育てが徹底的に充実しているとか。日本中の若い連中が恵那市に集まってくるという画期的な新しい施策を勇気をもってやっていただき、人口が減らない、消滅しない地域をたくさん作ってほしい。

■委員 第2次総合計画では、従前経験したことのなかった少子高齢化が進行するということで、13地域で関心があるのは、小学校の存続、併せて保育園の存続だ。また、高齢化社会で団塊の世代がたくさんいる。従前の自助公助だけでは限界がある。社会の会社等を卒業した人を活用して、地域全体で支える対応を考えてほしい。社会を経験した人も引っ張り込めば協力していただける。今までのノウハウをもってやってくれる。そういう力を借りながら地域全体を支えることが大事だ。有効な施策を展開して、共助の道を進んでいただきたい。

■委員 私は公募委員だ。何をするとところか分からずに応募した。移住してきてまだ3年だ。恵那市のことを知りたいと思ってかかわった。団体の代表でもないのに、自分の経験、自分の置かれているところでしか物が言えず空振りして大変だった。60歳になって移住してきたので、人口減少が大変だと言われる中で、肩身が狭い。でも、60代、70代がこの地に来たいと、そういう人がちょこちょこいていきいきと老後を迎えているので、若い人も大事だが、高齢者もこういうところで生活したいと思えるような都市にしてほしいと思った。でも、現実的に自分がここで最期を迎えられるか。足もないし、無理なんだろうかと

思ったりもする。恵那に移住したことを友だちに話すと、なぜ年を取ってから田舎に行くのかとほとんどの人に言われた。常識では都市で身近に交通機関のあるところに行くのと。なぜかと自分で思うと、自然があったからだ。ここでも最期が迎えられる、施設に入らず一人で生きていけるようになってほしいし、そういう地域にしたらもっとみんなが来てくれる。高齢者は年金という財源を持っているので、高齢者を歓迎すればもっと動きが変わると思う。高齢者がお荷物にならないような地域づくりの感覚をちょっと持っていただきたい。恵那のことが少し分かり勉強できた。

■副会長 快適部会だった。それぞれの地域の代表が多く、地域の課題が問題としてかなり提起された。その例を2、3挙げる。

独身者が非常に多い。40代、50代で独身の人がたくさんいる。この対策を講じてほしいという話が出た。明智は人口が5800人で、恵那市には消防団員が1088人おり、明智は144人で多いと思っていた。が、明智には50を超える自治区があり、そこに消防の器具庫があるが、自治区に消防団員が一人もいなくて、万が一の時誰がやるのかという問題もある。また、ガソリンスタンドがないという話もあった。大勢の人が何らかの形で社会参加できるようなまちづくりを目指すことが大事だと先ほどの委員が言われた。それも大事だと思う。

この1年で極めて大切な意見が出たと思う。ぜひそこをもって実施計画に取り組んでいただきたい。

■会長 今後これらのことに努めて行政に当たっていただきたい。

総合計画で今回答申した関係では、第4章、計画の実現に向けてというのがある。62ページ。この1年位、地域住民の声を聴いたりワークショップを開いたりしてきた。住民の中に意識変化が生まれる芽はできてきているというのが事実だ。ではそれに対応した行政運営はどうかということは課題として残っている。複合行政、総合行政を行うとき、ポイントそのものもどうなのか。地域振興事務所のもち方を検討してはということや、自分の与えられた所掌事務だけに限定して行動しようとする職員の行動パターンについても、第2次では見直してほしいという意見だった。

2つ目の地域計画、小規模多機能自治、コミュニティ、集落、小学校区のようなところでの取り組みとしっかり連携する、支援することも必要だということだが、それを具体的にどう進めるかは残された課題だ。今後、審議会としては、策定しただけで終わりではなく、今後の組織の運営についても注文を付けているということなので、この審議会としてはそこまでにする。

「その他」というところで、今後のスケジュールも含め、検証する部分、行動しながら考えていくというサイクルでないと総合計画は実現していかないということだと思う。

6. その他

■事務局 提案する。今日をもって審議会は仕切り直しをする。審議会は今日で終了する。今後は新たな組織を再度作り、来年1月からの総合戦略の策定、2次総合計画の進行管理、検証をしっかりとっていく。その中で、要綱では、総合計画推進市民委員会があるので、その組織を構築したい。また、併せて国の地方創生本部から、産学官、金言労といったものの専門的な知見を入れろということもある。産業界、行政機関、教育機関の参画で今まで組織してきたが、金融機関、労働団体、報道機関、メディアの参画を得て、今までより広い知見を求めてそういう組織を作っていく。また、地域自治区の代表、去年開催したまちづくり市民会議で若い世代の参画があったのでそういう人に呼びかけ、若者、女性の参画につなげる。それらを踏まえ新たな組織を作りたい。特にPDCAのC、チェックを十分できる組織を構築したい。了承いただきたい。

■会長 今後組織のありようについて意見交換しながら組織編成をしていきたい。

従来の分野別の基本計画がある。高齢者、教育など。そういうものはそのままにして総合計画だけ変えても、整合性がとれないのではないかという意見もある。総合計画の立場から個別の分野計画の見直しを要請することも含めて、次の審議会の課題としたい。ただ、チェックするだけではなく、既存の行政の進めている諸計画、行動の仕方についても意見を述べるような委員会になればいいと思う。そういう気持ちで市役所当局と話したい。

7. 閉会のあいさつ（副会長）

■副会長 先ほど一人一人の意見をいただいたので、特にコメントはない。1年間、お疲れさまでした。これで閉会する。

[閉 会]